大阪河崎リハビリテーション大学
認知予備力研究センター

Cognitive Reserve Research Center たより

No.13（2019年4月）

平成 31 年度科学研究費補助金応募結果発表！

○科学研究費補助金の応募状況について

皆さんのご協力を得て、昨年 11 月締切の平成 31 年度科研費への申請数は 9 本でした。これは開学以来の最多数 (基盤 C に 8 本、若手に 1 本) でしたが、お忙しい中に申請書を作成いただいた教員の皆様に感謝いたします。なかには忙しい時間をやりくりしてほとんど徹夜をして作成していただいた方もいると聞いて、そのご努力に敬意を表したいと思います。

科研費に応募することは、その領域の採択数を増やすことにつながりますので、応募するだけでも間接的にはその領域に貢献することになります。できるだけ多くの、理想的にはすべての教員) が、科研費に応募することを期待します。科研費への応募は、大学教員の権利でもあり義務でもありますので、獲得すること以上に応募することが大切と考えています。

○科学研究費補助金の採択結果について

平成 31 年 4 月 1 日に平成 31 年度科学研究費の採択結果が発表されました。本学から 9 本 (基盤 C 8 本、若手 1 本) に応募しておりましたが、3 本が採択になりました。

本学では平成 19 年の開学時に基盤研究 C1 本の採択がありましたが、それ以来なかなか科研費の採択に至らず、ようやく平成 24 年に中村先生が基盤 C を獲得されました。この年の応募は 6 件でした (採択 1/ 応募 6)。それ以降は採択がなく (平成 25 年 (0/7)、26 年 (0/5)、27 年 (0/6)、28 年 (0/6)) と苦戦続きでしたが、ようやく、平成 29 年 (1/3) に岡健司先生、平成 30 年 (1/6) に中村美砂先生の採択が 1 本ずつありました。これまでは、毎年 1 本の採択があるかないかという状態でしたが、本年度は、下記の 3 課題の採択となりましたので、今までになくよい結果となりました。

・新規課題

基盤 C（3 年間 330 万円）武田　雅俊教授　「先進的バイオマーカーを活用した認知予備力の本態解明」

基盤 C（ 3 年間 340 万円）芦塚あおい講師「睡眠の質と日中活動の客観的測定を用いた睡眠導入剤によるうつ / アパシー症状の改善」

基盤 C（3 年間 340 万円）南　　征吾講師「重度麻痺側上肢をターゲットにした補助的上肢への移行支援プログラムの開発」

平成 31 年度は、この新規採択の 3 本に加えて、下記のような 29 年度採択の岡講師、30 年度採択の中村教授と 4 月から本学に赴任された今井助教の 30 年度採択分がありますので、新規と継続をあわせて 6 本の科学研究費による研究が行われることになります。

・継続課題

基盤 C 岡　　健司講師　「ヒトのプラキエーション動作の運動学的・筋電図学的分析」

基盤 C 中村　美砂教授　「認知症予防を目指した運動指導へのロコモ 25 スコアの有効性」

研究活動スタート支援 今井　亮太助教　「運動学的分析に基づいた疼痛リハビリテーションの効果検証」

学校法人 河崎学園
大阪河崎リハビリテーション大学

〒597-0104　大阪府貝塚市水間 158
Tel ： 072-446-6700
URL ： https://www.kawasakigakuen.ac.jp/

○今後の科学研究費補助金獲得に向けて

昨年度は私立大学研究ブランディング事業に皆さんのご協力をいただき応募いたしましたが、いろいろとイレギュラーなことが重なり本事業の予算規模が大幅に縮小されたために、本学からの応募も採択されずにつらい思いをしましたが、文部科研費については一定の前進が見られたことを喜んでいます。本学における研究活動がますます活性化されることを期待したいと思います。

今回不採択になった課題については、せっかくのエネルギーを注いで作成された応募申請書を、次年度に向けてより一層の時間をかけて練り直していただき、より説得力のある申請書に修正して、応募していただきたいと思います。私の部屋に科研費申請の参考書が 4 冊あります。興味のある方にはいつでも貸し出しますのでお申し付けください。

一般論ですが、科研費の採択率は基盤 C では約 25% ですので、本学の本年度採択率 (3/9) は平均採択率を上回りました。ぜひとも来年も応募を重ねていただき、合計 10 本程度の科研費を獲得できればと期待しています。採択されるまで毎年応募し続けることを原則にしていただきたいと思います。

○認知予備力研究センターの活動について

認知予備力とリハビリテーションとは密接な関係があります。ご承知のように、リハビリテーションの効果は、対象者の意欲・動機付けに大きく左右されると言われており、リハビリテーションの成果を得るためには対象者の心理・社会的要因をも考慮する必要があります。このようなことから、認知予備力研究センター (CRRC) では、本学で行われる研究がスムーズに行われるような研究基盤を提供したいと考えています。研究対象者のリクルート、病院・施設との連携活動、大学など外部研究機関との連携協力、研究費の獲得など、いろいろと力になれる部分があろうかと思っています。

昨年度は私立大学研究ブランディング事業への応募を軸に活動してきましたが、本年度からは本学の研究活動がより一層活性化されることを目指して活動していきたいと思っていますので、どうぞご活用ください。

次回以降の ＣＲＲＣセミナーのお知らせ

平成 31 年度も CRRC セミナーを、原則として偶数月の第四火曜日 11.00 からの昼食時間帯に開催します。ただし、諸般の都合により、次回の第八回 CRRC セミナーは 5 月 28 日、次々回の第九回 CRRC セミナーは 7 月 23 日に変更になりました。

なお、水間病院の鐘本英輝先生が大阪大学大学院精神医学教室にお戻りになりましたので、水間病院の連絡窓口を東眞吾 (あずましんご) 先生にお願いすることにいたしました。

第八回 5 月 28 日火曜日のプログラムは、①古井透先生、②論文紹介、③水間病院東眞吾先生、「特発性正常圧水頭症患者における髄液中アルツハイマー病関連バイオマーカーとシャント手術に伴う脳血流量変化」を予定しています。昼食を準備する都合がありますので、参加される方は事前に事務の河瀬さんまでご連絡をお願いいたします。